

平成31年 2月

永原蘭 学位論文審査要旨

主 査 汐 田 剛 史
副主査 植 木 賢
同 磯 本 一

主論文

Gene expression analysis of the activating factor 3/nuclear protein 1 axis
in a non-alcoholic steatohepatitis mouse model

(非アルコール性脂肪肝炎モデルマウスにおける活性因子 3/ 核内タンパク質 1経路の遺
伝子発現分析)

(著者：永原蘭、的野智光、杉原誉明、松木由佳子、山根昌史、岡本敏明、三好謙一、
永原天和、岡野淳一、孝田雅彦、磯本一)

平成31年 Yonago Acta Medica 掲載予定

参考論文

1. 肝硬度が血管形成術治療効果判定に有用であったBudd-Chiari症候群の1例

(著者：永原蘭、的野智光、孝田雅彦、松木由佳子、山根昌史、岡本敏明、三好謙一、
永原天和、杉原誉明、大山賢治、岡野淳一、磯本一、小谷美香、矢田晋作、
大内泰文)

平成30年 肝臓 59巻 563頁～570頁

審査結果の要旨

近年、非アルコール性脂肪肝炎の進展に小胞体ストレスの関与が報告されているが、本研究はFLS-*ob/ob*マウスを用いて非アルコール性脂肪肝炎における小胞体ストレスの役割について検討したものである。その結果、非アルコール性脂肪肝炎モデルマウスでの肝線維化進展過程でATF3/NUPR1遺伝子発現が増加し、アポトーシスや肝線維化へ関与する可能性が示された。本研究は、非アルコール性脂肪肝炎において、ATF3/NUPR1経路が肝線維化などの病態形成に関与するという新たな知見を示唆するものであり、明らかに学術水準を高めたものと認める。